

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年十一月度 入選句（投稿総数二千八百四十八句・一般投句数六百九十八句）

特選

栗ごはん具の無きところ母の椀

不破郡垂井町 富田 実郎

新栗の殻や渋皮をとり、塩味をつけて炊きこんだ栗ごはんは、ひなびた風味があつて本当においしい、栗ごはんの具すなわち栗を、自分には殆んど無い状態にし、子供を中心とした家族に与えられる、家族愛、子供の喜びと成長を願う母性愛をうたわれたいい句です。

蓮の実の飛んであわてる魚の影

大垣市 田中 雅子

蓮という名前は、蜂巣の略で、花が散ったあと、果実のはいつた花托が、おわんの形をしていて穴があり、蜂の巣に似ていることに由来します。この花托の中で種が熟すと、この実は穴から飛んで水に落ちます。これを「蓮の実飛ぶ」といいます。不意打ちを受けた魚の様子がよくとらえられています。

七五三 小 さ き 紳 士 父 似 な り

大垣市 棚橋 昭子

七五三は十一月十五日に、三歳、五歳の男児、三歳、七歳の女児を祝う行事、三歳児の「髪置」、五歳児の「袴着」、七歳児の「帯解」の、別々の行事が、一つになったものです。多分五歳児を紳士服姿にされたら余りにもお父さんによく似られたのをよまれた句で、下の句がよいと思います。

秀逸

献花せし手の菊の香や蛤塚忌

愛知県岡崎市 都筑 典子

書に倦みてしばし傾聴虫のこゑ

愛知県尾張旭市 古賀 勇理央

対エボラ銃なき大戦秋の陣

大垣市 浅野 亨

活字みな睡眠剤よ夜半の秋

養老郡養老町 田中 秀子

柿むきて差し出す老婆の笑みやさし

大垣市 大橋 しげ子

祭り膳母の得意な菊なます

大垣市 安田 むつこ

たわわなる隣家の誇る次郎柿

大垣市 吉田 てるみ

天高し強き少女は世を変える

大垣市 安福 けい子

東京の孫子案じて盆の月

長野県下伊那郡 長沼 まさし

マスクして目もと美人となりにけり

大垣市 鈴木 美江子

入選

無住寺や拾ふ人なき木の実落つ
一村のどの軒下も柿すだれ
風に竹百幹のさざめきぬ
満月に母を誘いし車椅子
紅葉に負けぬ夕空あかね色
熟れ柿に祖母なつかしや弔い上げ日
前を向け伊吹風もなんのその
テスト終え不安の中で飲む熱燗
秋空にクレール止まり昼ご飯
足長の影連れ立ちて冬の朝

大垣市	鶴田 信子
安八郡神戸町	高橋 日出美
養老郡養老町	田中 紫香
不破郡垂井町	桐山 芳和
大垣市	杉崎 郁子
大垣市	時田 さがみ
大垣市	木村 一句
高知県須崎市	野中 泰佑
福岡県田川郡	成松 義紀
滋賀県甲賀市	甲賀 忍者

入選

はせを像以外と美男初もみぢ
夕月やうつとりながめ手を合す
柿みのり鳥の客ふえ食される
嬉しいな栗ごはん届くとなりから
音もなく静かなる池月うつす
子ら走る銀杏落葉を蹴散らして
アパートの小さき空地小菊咲く
足裏にきしむ板の間秋しぐれ
過疎の村芒穂凜と立ち並ぶ
新藁と日向の匂ひ里の日々

石川県白山市	瀬川 恵
大垣市	桐山 敏子
大垣市	金森 和代
大垣市	竹中 昌子
大垣市	竹中 昌子
養老郡養老町	高木 美保
大垣市	棚橋 昭子
不破郡垂井町	竹嶋 富美子
大垣市	高石 政明
広島県福山市	熊丸 幸橋

選者吟

声のしてもう一人ゐし松手入れ

庄一郎